

STAGE+を楽しむ(134)(HP 収載)

—サンクトペテルブルク建都 300 年記念ガラ・コンサート—

1. 始めに

前報(133)に引き続き、STAGE+のサンクトペテルブルク建都 300 年記念ガラ・コンサートの試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回は、サンクトペテルブルク建都 300 年記念ガラ・コンサートの演奏を選びました。

サンクトペテルブルク建都 300 年記念ガラ・コンサート

ネトレプコ、マイスキーらを迎えて

収録日: 2003 年 6 月 1 日

ロシアの文学・音楽・美術の中心でもあり、「芸術の都」として知られるサンクトペテルブルクは、2003 年に建都 300 年を迎えています。その記念すべき日を祝う「白夜祭」の一環として、ソプラノのアンナ・ネトレプコ、バリトンのディミトリ・ホロストフスキー、さらにチェロのミッシェ・マイスキーらを迎えて、珠玉の音楽ガラが開催されました。本映像にはその華麗なるコンサートの模様が収められています。指揮はユーリ・テミルカーノフで、スーパースターの集う圧倒的な舞台を格調高い響きでまとめあげていきます。

ソリスト:

エリソ・ヴィルサラゼ (ピアノ)、ヴィクトル・トレチャコフ (ヴァイオリン)、アンナ・ネトレプコ (ソプラノ)、ディミトリー・ホロストフスキー (バリトン)、ミッシェ・マイスキー (チェロ)

演奏:

サンクトペテルブルク・フィルハーモニー管弦楽団

指揮:

ニコライ・アレクセーエフ、ユーリ・テミルカーノフ

曲目:

ドミトリ・ショスタコーヴィチ 祝典序曲 op. 96

ユーリ・テミルカーノフ(指揮)

カミーユ・サン=サーンス

ヴァイオリンと管弦楽のための序奏とロンド・カプリチオーソ Op. 28

ヴィクトル・トレチャコフ(ヴァイオリン)

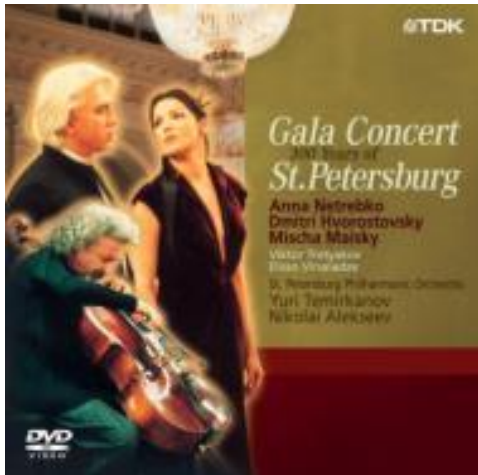
ニコライ・アレクセーエフ(指揮)
モーリス・ラヴェル 左手のためのピアノ協奏曲ニ長調 M. 82
エリソ・ヴィルサラーゼ(ピアノ)
ニコライ・アレクセーエフ(指揮)
ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー
《エフゲニ・オネーギン》よりポロネーズ
ニコライ・アレクセーエフ(指揮)
ガエターノ・ドニゼッティ
《ランメルモールのルチア》より 〈あたりは静けさに包まれ〉
アンナ・ネトレプコ(ソプラノ)
ユーリ・テミルカーノフ(指揮)
ジャコモ・プッチーニ 《ラ・ボエーム》より 〈私が街を歩けば〉
アンナ・ネトレプコ(ソプラノ)
ユーリ・テミルカーノフ(指揮)
ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー
《スペードの女王》より 〈あなたを愛しています〉
ディミトリー・ホロストフスキー(バリトン)
ユーリ・テミルカーノフ(指揮)
ジュゼッペ・ヴェルディ
《ドン・カルロ》より 〈おおカルロ様、お聞きください〉
ディミトリー・ホロストフスキー(バリトン)
ユーリ・テミルカーノフ(指揮)
オットリーノ・レスピーギ アダージョと変奏
ミッシャ・マイスキー(チェロ)
ユーリ・テミルカーノフ(指揮)
マックス・ブルッフ チェロと管弦楽のための《コル・ニドライ》op. 47
ミッシャ・マイスキー(チェロ)
ユーリ・テミルカーノフ(指揮)
ルッジェーロ・レオンカヴァッロ
《道化師》より 〈ネッダ！ーシルヴィオ、こんな時間に、むこう見ずね〉
ディミトリー・ホロストフスキー(バリトン)
アンナ・ネトレプコ(ソプラノ)
ユーリ・テミルカーノフ(指揮)
セルゲイ・ラフマニノフ ファンファーレ (交響曲第1番第4楽章より)
ユーリ・テミルカーノフ(指揮)



同じ音源の DVD がありましたので、これも試聴しました。

TDK TDBA-0072

ガラ・コンサート St.ペテルブルグ



3. 試聴の経過

前回に引き続き、スピーカーアキュライザーの位置を変更し、スピーカーアキュライザーからのバイワイアリングケーブルにケーブルチューナーを装着し、ルーター→スイッチングハブ→PCの2本のLANケーブルにLANアキュライザーを使用しています。さらに、スイッチングハブに光城精工の仮想アース Crstal EpL を接続し、ルーターに自作の仮想アースを接続しています。

また、CDクリーナーの効果(9)で報告しましたようにPCのストリーミング再生において、PCの液晶画面とLAN iSilencer とルーター に対するCDクリーナーの処理を行っています。

収録曲数が多いので、一部を選んで紹介します。

ショスタコーヴィチの祝典序曲は、色彩感あふれるいかにも祝典のための曲という印象です。

サン=サーンスのヴァイオリンと管弦楽のための序奏とロンド・カプリチオーソは、切れの良いトレチャコフのヴァイオリンが冴えています。

ラヴェルの左手のためのピアノ協奏曲ニ長調 は、ヴィルサラゼの左手だけとは思えない鮮やかなピアニズムが冴えています。

プッチーニの《ラ・ボエーム》より〈私が街を歩けば〉は、人気絶頂のソプラノのネトレプコの伸びのあるダイナミックな歌唱が会場を沸せています。

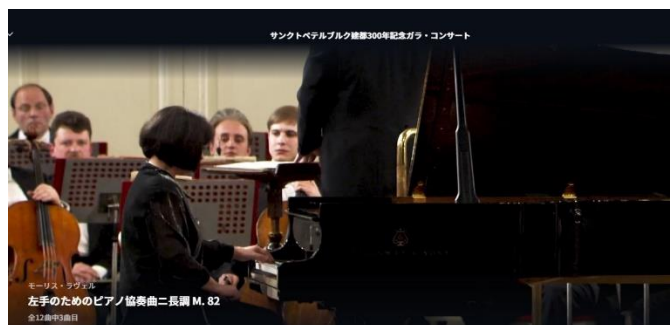
ブルッフのチェロと管弦楽のための《コル・ニドライ》は、マイスキーのヴィブラートの効いた甘いチェロが聴かせどころです。

レオンカヴァッロの《道化師》より〈ネッダ！—シルヴィオ、こんな時間に、むこう見ずね〉は、バリトンのホロストフスキーとソプラノのネトレプコのドラマティックな二重奏です。

以上のいずれも、LAN アキュライザーと Crstal EpL や CD クリーナーの効果により 2003 年の収録とは思えないほどの鮮度感があります。

DVD の方は、DMR-UBZ1 で再生し、デジタルアキュライザー DACU-500 経由で Sonica DAC に入力します。これにより Sonica DAC の入力を USB 入力と S/PDIF 入力で切り替えることにより、PC の STAGE+再生と DVD 再生の瞬時切り替えができます。

こうやって STAGE+再生と DVD 再生を比較してみましたが、STAGE+の配信再生は DVD に劣るどころか、むしろ解像度は良いくらいです。





TVはDVD再生・PCはSTAGE+再生

4. まとめ

LAN アクイライザーと Crstal EpL や CD クリーナーの効果により、2003年の収録とは思えないほどの鮮度感があり、DVD再生に勝るとも劣らない音質です。

以上